

## 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(7)

### ——本学学部生の本学大学院への進学ニーズ——

曾田 陽子<sup>1</sup>, 小松万喜子<sup>1</sup>, 川田智恵子<sup>2</sup>

## A Report on Educational Reform in Aichi Prefectural College of Nursing and Health (7)

### —— Needs of the Students to Study at the Graduate School of Nursing ——

Yoko Sota<sup>1</sup>, Makiko Komatsu<sup>1</sup>, Chieko Kawata<sup>2</sup>

キーワード：大学院教育，進学ニーズ，学部生

#### はじめに

少子高齢社会の保健医療福祉システムの中で，健康の支え手として科学的・理論的かつ倫理的に判断し，国際的にも活躍できる実践能力を備えた看護専門職の育成の必要性が高まっている．本学では，看護職が社会からの期待と信頼に応えていくために，学問領域としての看護学の一層の拡充を図り，看護実践の向上に資する大学院教育のあり方について検討を重ねている．

平成17年度博士課程小委員会では，本学大学院への看護職および学部生の進学に関する意見や，本学大学院修了者の雇用に関する意見を広く調査した．本稿ではこの調査のうち，本学看護学部在学生（以下，学部生）の調査結果を中心に分析を行い，学部生のニーズの視点から本学大学院教育の課題を検討したので報告する．

#### I. 目的

本学大学院進学に関する学部生のニーズを明らかにする．

#### II. 方法

##### 1. 調査対象

休学中の学生を除いた324人の学部生を対象とした．

#### 2. 調査方法

##### 1) 調査内容

無記名自記式質問紙により，次の内容について質問した．

- (1) 対象の属性：年齢，出身県，学年，取得済み免許，卒業後の進路希望
- (2) 大学院への進学ニーズ：①現在の本学大学院修士課程への進学希望について，②本学の修士課程に専門看護師（以下 CNS）コース，認定看護管理者コース，助産師養成コースを新設した場合の進学希望について，③本学に博士課程を新設した場合の進学希望について，④大学院進学の場合の仕事の継続について，⑤大学院への進学を決定する際に問題となること，大学への希望（自由記載），⑥ CNS コース，認定看護管理者コース設置についての意見（自由記載），⑦助産師養成コース設置についての意見（自由記載），⑧博士課程設置についての意見（自由記載）

##### 2) 調査期間

平成17年6月10日から6月24日

##### 3) 質問紙の配布・回収方法

- (1) 1～3年生，編入生：講義開始前に一斉配布した．調査協力を強制力がかけられないよう配慮し，質問紙は回答

<sup>1</sup>愛知県立看護大学（基礎看護学），<sup>2</sup>愛知県立看護大学（学長）

の有無に関わらず封筒に入れて提出するように説明し、数時間後に一斉回収した。あわせて、回収箱を設置し、そこへの投函も可能であることを説明した。

(2) 4年生：教員が実習グループごとに配布し、調査協力を強制力がかからないよう配慮し、回答の有無に関わらず封筒に入れて提出するように説明し、回収した。あわせて、回収箱を設置し、そこへの投函も可能であることを説明した。

### 3. 倫理的配慮

調査目的および方法、調査協力は自由意思に基づくこと、無記名で個人は特定されないこと、調査協力の有無によって不利益は受けないこと、質問紙を回答の有無に関わらず封筒に入れて提出することで調査協力の有無を秘匿すること、質問紙への記入をもって調査協力の同意の確認とすることを記載した文書を質問紙に添付し、さらに配布時に口頭で説明した。

## III. 結果

質問紙の回収数は263（回収率81.2%）、有効回答数261（有効回答率99.2%）であった。

### 1. 対象の属性（表1）

平均年齢は20.6±3.7歳で、学年の内訳は1年生70人（26.8%）、2年生68人（26.1%）、3年生63人（24.1%）、4年生45人（17.2%）、編入生15人（6%）であった。出身は愛知県内が202人（77.4%）、愛知を除く東海地区が30人（11.5%）、近畿地区が10人（3.8%）、その他・不明が19人（7.3%）で、愛知県内および東海地区が、対象の88.9%を占めていた。看護職の免許の既取得者は15人で、卒業後の希望進路（複数回答）は、看護師145人、保健師33人、助産師29人、進学希望は27人（大学院12人、助産師養成所10人、その他の進学5人、未定45人、その他3人）であった。

### 2. 大学院への進学ニーズ

#### 1) 現在の本学大学院修士課程への進学希望

現在の本学大学院修士課程への進学希望を表2に示した。「進学したい」5人（1.9%）、「できれば進学したい」8人（3.1%）、「進学を希望するかもしれない」70人（26.8%）を合わせると、83人（31.8%）が本学への進学を希望していた。進学希望には、学年、愛知県内出身

表1 対象の属性

		n=261	
項目		人(%)	
学年	1年生	70 (26.8)	
	2年生	68 (26.1)	
	3年生	63 (24.1)	
	4年生	45 (17.2)	
	編入生	15 ( 6.0)	
出身地	愛知県	202 (77.4)	
	愛知県を除く東海地区	30 (11.5)	
	近畿地区	10 ( 3.8)	
	その他・不明	19 ( 7.3)	
看護師免許	未取得	246 (94.0)	
	既取得	15 ( 6.0)	
希望進路 (複数回答)	看護師	145	
	保健師	33	
	助産師	29	
	進学	助産師養成所	10
		大学院	12
		その他の進学	5
	未定	45	
その他	3		

か否かという出身地の違い、既免許取得者か否か、進路希望の違いによる統計的な差はみられなかったが、進学希望者および進路希望の未定者は、本学の大学院を進学先として考えていた。一方、卒業後の進路として看護師、保健師、助産師を希望している約3割の学部生も、進路の1つとして大学院を考えていた（表3）。

#### 2) 修士課程にCNSコース、認定看護管理者コース、助産師養成コースを新設した場合の進学希望

CNSコースなどを新設した場合の進学希望と希望領域を表4に示した。「進学したい」33人（12.6%）、「できれば進学したい」36人（13.8%）、「進学を希望するかもしれない」110人（42.1%）を合わせると179人（68.6%）の学部生が進学を希望していた。希望領域は、希望者数が多い順に助産師養成コース70人、小児看護58人、がん看護54人、母性看護50人、認定看護管理者35人、精神看護30人、クリティカルケア看護24人、地域看護24人、在宅看護23人、老人看護20人、成人看護慢性20人であった。課程を新設した場合の進学希望においても、学年、愛知県内出身か否か、既免許取得者か否か、進路希望の違いによる統計的な差はみられなかった。また大学院進学希望者、進学先が未定である進学希望者、進路未定者以外

表2 学部生の本学大学院修士課程への進学希望

項目	単位:人(%)					
	1年生 n=70	2年生 n=68	3年生 n=63	4年生 n=45	編入生 n=15	合計 n=261
①したい	2	1	0	1	1	5
②できればしたい	5	1	1	1	0	8
内訳 ③するかもしれない	27	16	16	7	4	70
④まったくわからない	12	12	14	4	2	44
⑤おそろしくない	24	38	32	32	8	134
本学大学院修士課程への進学を希望する*	34 (48.6)	18 (26.5)	17 (27.0)	9 (20.0)	5 (30.0)	83 (31.8)

\* 内訳の①②③を「進学を希望する」とした

表3 進路希望別にみた大学院への進学希望\*

項目	総数	人(%)		
		現在の修士課程 n=83	コース新設の修士課程 n=197	新設の博士課程 n=64
看護師	145	46 (17.6)	95 (36.4)	30 (11.5)
保健師	33	8 (3.1)	22 (8.4)	8 (3.1)
助産師	29	11 (4.2)	22 (8.4)	9 (3.4)
希望進路 (複数回答) 進学				
助産師養成所	10	2 (0.8)	7 (2.7)	3 (1.1)
大学院	12	6 (2.3)	9 (3.4)	4 (1.5)
未定	5	4 (1.5)	5 (1.9)	5 (1.9)
未定	45	16 (6.1)	32 (12.3)	15 (5.7)
その他	3	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)

\* ①進学をしたい、②できれば進学したい③進学を希望するかもしれないを「進学希望あり」とした  
( )内は対象者(n=261)に対する希望進路別の進学希望者率を示した

では、課程を新設した場合の進学希望者率が倍増しており、助産師養成所に進学希望をするものにおいては、課程を新設した場合の進学希望者率が3倍に増加していた(表3)。

### 3) 博士課程を新設した場合の進学希望

本学に博士課程を新設した場合の進学希望を表5に示した。「進学したい」5人(1.9%)、「できれば進学したい」5人(1.9%)、進学を希望するかもしれない54人(20.7%)の合わせて64人(24.5%)が進学を希望していた。博士課程への進学希望においても、学年、愛知県内出身か否か、既免許取得者か否か、進路希望の違いによる統計的な差はみられなかった。

### 3. 大学院に進学する場合の仕事の継続

仕事を継続しながら進学を希望する者が69人(26.4%)、どちらかといえば継続を希望する者が113人(43.3%)、

どちらかといえば辞職を希望する者が59人(22.6%)、辞職をすることを希望する者が11人(4.2%)で、無回答9人(3.4%)あり、182人(69.7%)が仕事を継続しながら就学することを希望していた。

### 4. 大学院進学の意味決定に際し問題になること、大学への要望

大学院進学の意味決定に際し問題になること、大学への要望については81人から124件の記述が得られた。類似する内容ごとに分類した結果を表6に示した。進学の意味決定における問題としては、学費などの経済的問題(26件)、大学院についての情報不足(26件)などがあがっており、大学への要望としては、大学院についての情報提供を要望する記述(46件)、進学・就学への便宜を要望する記述(8件)が合計54件と多かった。また「実践力を身につけてこそ看護師である」、「早く臨床経験を積みたい」、「臨床に出てみて、必要と感じたら進学する」と

表4 本学修士課程に新コースを設置した場合の進学希望

単位:人(%)

項目		1年生 n=70	2年生 n=68	3年生 n=63	4年生 n=45	編入生 n=15	合計 n=261	
内訳	①したい	13	5	11	3	1	33	
	②できればしたい	6	13	9	4	4	36	
	③するかもしれない	28	25	25	24	8	110	
	④まったくわからない	14	13	12	9	2	50	
	⑤おそろしくない	9	12	6	5	0	32	
進学を希望する*		47 (67.1)	43 (63.2)	44 (69.8)	31 (68.9)	13 (86.7)	179 (68.6)	
希望領域 (複数回答)	CNS コース	小児看護	19	18	11	8	2	58
		がん看護	17	9	16	10	2	54
		母性看護	17	11	13	6	3	50
		精神看護	10	4	8	6	2	30
		クリティカルケア看護	2	5	9	5	3	24
		地域看護	10	4	5	4	1	24
		在宅看護	8	3	5	6	1	23
		老人看護	12	2	2	2	2	20
	成人看護慢性	7	6	3	4	0	20	
	助産師養成コース	22	19	17	9	3	70	
認定看護管理者	10	9	9	4	3	35		

\* 内訳の①②③を「進学を希望する」とした

表5 博士課程への進学希望

単位:人(%)

項目		1年生 n=70	2年生 n=68	3年生 n=63	4年生 n=45	編入生 n=15	合計 n=261
内訳	①したい	1	0	2	1	1	5
	②できればしたい	0	1	1	2	1	5
	③するかもしれない	23	12	11	6	2	54
	④まったくわからない	26	30	28	22	6	112
	⑤おそろしくない	20	25	21	14	5	85
進学を希望する*		24 (34.3)	13 (19.1)	14 (22.2)	9 (20.0)	4 (26.7)	64 (24.0)

\* 内訳の①②③を「進学を希望する」とした

いうように臨床経験を重視する考えや、臨床経験が少ない現段階では判断が難しいという内容が記述されていた。

## 5. 大学院の新設課程に関する意見

### 1) CNS コース, 認定看護管理者コースの設置についての意見

CNS コース, 認定看護管理者コースの設置については55人から63件の記述が得られた。類似する内容ごとに分類した結果を表7に示した。CNS コース, 認定看護

管理者コースの設置については、設置を歓迎する記述、教育体制の充実を求める記述、情報提供を求める記述であり、記載例としては「高い専門性を身につけるために必要」などが8件で、看護の専門性と高い実践力を持った看護職者の育成を期待する記述が多かった。

### 2) 助産師コースの設置についての意見

助産師コースの設置については、52人から84件の記述が得られた。類似する内容ごとに分類した結果を表8に

表6 大学院への進学の意味決定に際し問題になること、大学への要望  
(回答数81人)

		(件数)
	項目	記載例
問題	経済的問題(26)	費用がかかる(20)
		これ以上親や家族に負担をかけられない(3)
		収入がなくなる(3)
	情報不足(26)	何をどのように学ぶところかわからない、もっと知りたい(13)
		情報が欲しい(4)
		学費(4)
		働きながら学べるのか(2)
		就職先(2)
	入試(1)	
	仕事の問題(8)	仕事を辞めなければならない(5)
		同年代より臨床経験が2年遅れる(2)
		実践力を身につけてこそ看護師(1)
年齢(6)	再就職が困難になる(4)	
	結婚時期との関係(2)	
立地条件(2)	仕事と両立したいが通学に不便である(2)	
家族の理解(2)	家族の理解や協力が得られるか(2)	
要望	大学院についての情報提供(46)	何が学べるところかをもっと知りたい(19)
		学費(9)
		修了後の進路(6)
		大学院を修了することのメリットはなにか(3)
		取得免許(2)
	進学、就学への便宜(8)	臨床経験を積んでから、または、仕事を継続しながら学べるよう制度の充実(6)
		入試説明会の早期実施(2)
		大学院入試対策をして欲しい(1)
		入試枠の拡大(1)

示した。新設に向けての期待や要望が53件記述されており、関心の高さが伺えた。定員枠の拡大を要望する意見が17件、設置に対しての疑問が3件記述されていた。

### 3) 博士課程設置についての意見

博士課程設置について、25人から25件の記述が得られた。類似する内容ごとに分類した結果を表9に示した。約半数である14件が設置を歓迎する記述であったが、博士課程についての情報提供を望む記述も7件みられた。

## IV. 考察

### 1. 本学大学院修士課程への進学ニーズについて

70人(26.8%)の学部生が「進学を希望するかもしれ

ない」という漠然とした捉え方ではあるが本学大学院の進学を考えており、進学を「したい」「できればしたい」とかなり明確な目標として進学を考える者13人(5%)とあわせ、83人(31.8%)の学生が大学院進学を考えていた。結果に学年差がないことから、学部生は入学後の早い段階から大学院を進路の1つとして考えているようである。CNSコースや助産師養成コースが新設されることで、進学希望率は上昇する。特に助産師養成コースへの希望は高かった。この調査結果をもとに、大学院がより学部生のニーズに応じていくための課題を検討する。

まず大学院についての情報提供の検討である。学生たちは、大学院を進路の1つとして捉えているものの、同時に大学院とは何をおこなうところか、その存在意義と、そこで経験していく大学院生の生活がどのようなもので

表7 CNS認定コース、認定看護管理者コースの設置についての意見（回答数55人）

(件数)	
項目	記載例
専門職としての必要性(18)	専門看護師の需要が高まるだろうからぜひ必要(10)
	高い専門性を身につけるために必要(8)
母校の発展への期待(14)	魅力ある大学になる(6)
	出身大学で学べることは嬉しい(5)
	全国に少ないので独自性が出る(2)
	レベルの高い大学であって欲しいのであるとよい(1)
設置を希望・歓迎 (12)	ぜひ設置して欲しい、あったらよいと思う(12)
利便性(6)	臨床で働くと自分の専門分野を深めたくなると思うとき県内で学べるのがよい(6)
将来性への期待(5)	将来への選択肢が広がる(3)
	視野が広がる(2)
教育体制の充実を求める(5)	実習施設・教員の充実(2)
	更新手続きのフォローアップ体制の整備(2)
	働きながら学べる体制(1)
コースについての情報提供の希望 (3)	カリキュラムや修了後の進路・就職について (3)

表8 助産師コースの設置についての意見（回答数52人）

(件数)	
項目	記載例
新設に向けての期待・要望(53)	6名から定員を増やしてほしい(17)
	4年間の学部教育の中で学ぶハードさが緩和される(14)
	じっくりと学べる(13)
	4年間の学部教育の中で学ぶ過密さが解消されることを期待する(9)
設置を歓迎 (24)	助産師への門戸が広がる(20)
	母校で学べることは魅力(4)
体制整備を要望(4)	実習地の整備(1)
	母校に戻ってこれるような入試制度をつくって欲しい(3)
設置に疑問(3)	大学で学ぶのとの違いを明確にして欲しい(1)
	少子化で助産師の需要があるのか(1)
	必要ない(1)

あるか、自分の興味があることを深めていくことができるのか、費用はどの位かかるのか、修了後の進路について等々、124件におよぶ疑問を自由記載欄に記述していた。質問の多さは、関心の現われと解釈してよいであろうし、これらの記述は、学年の別なく書かれていた。現在でもパンフレットやホームページ、進路説明会などの機会を利用して大学院についての紹介は行われている。また教員や学生課による個別対応も行われている。これらをどの程度活用した上で「わからない」と記述しているかは不明であるが、大学はそれらの活用促進を図るとともに、大学院の紹介内容や方法を吟味すること、学年を問わず

希望者が参加できる大学院の入試説明会の開催なども検討していくことが必要だと考える。また、これらの取り組みは、新コースや博士課程を設置した場合でも同様に必要となる。

## 2. 新コース設置に関連したニーズについて

現在の大学院への進学希望者率が31.8%であるのに対して、修士課程にCNS認定コース、認定看護管理者コース、助産師養成コースを設置した場合は68.6%に倍増していた。学部生の新コース設置に対するニーズはかなり高いといえる。自由記載には、新コースの設置を、看護

表9 博士課程設置についての意見(回答数25人)

項目	記載例
設置を歓迎(14)	あるとよいと思う(4)
	母校で博士を取れるのは魅力(3)
	看護の専門大学として必要(2)
	選択肢が増えてよい(2)
	臨床で活躍する博士になりたい(1)
博士課程についての情報提供(7)	博士課程自体がよくわからない, 何をするとするか, など(7)
体制の充実を希望する(3)	実習施設・教員・カリキュラムの充実(3)
学部教育の充実を求める(1)	大学院の設置については基本的には賛成であるが, 学部教育の充実があってこそ意味あるものではないか。現在の過密な学部のカリキュラムを見直し, 5, 6年制にするなどの対応が必要ではないか(1)

(件数)

の専門性を高めるとり組みとして期待する記述がみられた。またより高度な看護の専門家としてのCNS等の需要が今後益々高まっていくと捉える記述もみられ、CNS等を理想像や目標として捉えている学部生が多いことが伺えた。平成17年3月現在、愛知県内にはCNSの養成機関がない。愛知県内および東海地区出身者が9割を占める調査対象者の、新コース設置への期待が高いのは当然のことともいえる。また、コース新設を歓迎すると同時に、実習施設や教員スタッフの充実、資格取得後のフォローアップ体制の充実を望むなどの具体的な記述がみられ、ここからも新コース設置への関心の高さと期待が伺えた。

新設コースの中では助産師養成コースへの進学希望が最も多く、助産師の資格取得を希望する学生が多いことがわかる。現在の学部教育における助産学専攻は6人という履修人数制限があり、履修にあたってカリキュラムの過密化が起きている。自由記載においても、助産師養成コースが大学院に設置されることで、現在よりもじっくりと勉学に打ち込めるであろうという期待、そして定員枠が拡大されるという期待が多く記述されていた。

助産師養成コースをはじめ、小児看護やがん看護CNS養成へのニーズも高い。社会のニーズを考慮しつつ、専門性を高めていきたいという学部生のニーズに応じていくよう努力していくことが大学に求められる課題といえよう。

### 3. 社会人への学修支援に関する要望

進学時の仕事の継続については、約7割が「仕事を継続しながら進学したい」と考えていた。自由記載では、

大学院への進学に関する問題として、「実践力を身につけてこそ看護師である」、「早く臨床経験を積みたい」というように臨床経験を重視し、大学院に進むことにより看護師としてキャリアのスタートが遅れたり、中断したりすることを心配する記述や、「臨床に出てみて、必要と感じたら進学する」という記述がみられ、臨床に目を向けている学生の傾向が伺えた。この傾向が、高い実践能力の育成に関わるCNSコースへの進学希望者が、現行課程の2倍に増加するという結果につながっていると考えられる。これとともに、大学院進学に際し「費用が問題」、「親にこれ以上負担をかけられない」などの経済的な自立を志向する姿も浮かび上がってくる。金銭的な面からも、仕事を継続したままでの進学を希望し、大学院在学中の経費や、大学院修了後の就職を案じて進学をあきらめるといふことにもつながりかねない。就学中の経済的な安定と修了後の進路に関する情報も、進学を決定する際の重要な要因であり、大学院進学についての情報提供の中に、是非加えていく必要がある。

今回の調査で明らかになった高い進学ニーズに応えるためには、社会人の就学支援の充実も重要な課題といえる。現在行っている科目等履修生制度・サテライトキャンパスの継続、仕事を継続しながら学べるような昼夜の開講や柔軟な就学年限の設定、社会人入試制度や奨学金制度の充実など、社会人の進学を支援する体制の整備と、それを広く受験対象者に知らせていくことが必須であろう。

## V. まとめ

学部生を対象にして大学院進学に関するニーズ調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. CNS等の新コースを設置した場合、学部生の大学院進学希望は現在の修士課程への進学希望の31.8%から、68.6%に倍増する。
2. 新コース中では助産師養成コースの希望者が多く、定員枠拡大へ期待が伺えた。
3. 大学への要望としては、大学院についての情報提供

を求める者が多かった。

4. 大学院在学中も仕事を継続することを望み、社会人が学ぶことへの支援体制の整備を期待していた。

## 謝辞

調査にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

[本稿は、学部生の調査の実施および分析を担当した教員がまとめたものである.]